

# 東京音楽大学リポジトリ

## Tokyo College of Music Repository

ラジオ放送を通じて日本の吹奏楽の変遷を探る

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2022-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷田部, 敬一, Yatabe, Keiichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1446">https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1446</a>

# ラジオ放送を通じて日本の吹奏楽の変遷を探る

谷 田 部 敬 一

# ラジオ放送を通じて日本の吹奏楽の変遷を探る

谷田部 敬一

## 【はじめに】

明治に入り、「日本の吹奏楽」は軍楽隊と共に誕生し、今日までに発展してきた。明治、大正時代の60年の間に目覚ましい発展を遂げ、現在の「日本の吹奏楽」に引き継がれている。

今回の研究は、大正14年(1925)3月ラジオ放送開始から、昭和20年(1945)8月の第二次大戦終了までの約20年間の放送番組の中から「吹奏楽」を抽出し、放送回数、演奏団体、曲目などを集計し、時代の流れと照らし「吹奏楽」がどのように移り変わっていったのか?など、今まであまり注目されない角度からその変遷を探ってみたいと考える。

なお、論文末に「社会・放送・吹奏楽に関する出来事」を一覧にまとめた。

## 【明治～大正末期における吹奏楽の経緯】

寛永6年(1853)のペリー来航から始まった開国により長い鎖国から目覚めた日本は、政治だけでなく生活様式や文化など大きな転換期となった。そんな中、音楽も日本の伝統音楽に洋楽が流入し、人々は新たに西洋音楽を聴くようになった。西洋音楽を人々に速やかに浸透させる役割として「軍楽隊」の存在があった。

開国により西洋式軍楽隊の整備に合わせ、軍楽隊が編成された。本来、文化は徐々に浸透することが多い中、軍楽隊の設立は国内における西洋音楽を急速に浸透させることにおおいに貢献した。この軍楽隊こそ、今日の吹奏楽の原点と考えられる。

明治初期の軍楽隊について、多くの研究者によってその歴史が述べられているが、大正末期のラジオ放送開始に関連づけられるために、それまでの経緯を簡単に述べておきたい。

軍楽隊は明治2年(1869)9月に薩摩藩の軍楽伝習生約30人により、横浜本牧山妙香寺において、イギリス陸軍軍楽隊長ジョン・ウイリアム・フェントン(1831-1990)から指導を受けて誕生したが、吹奏楽の事始めとなり、薩摩藩楽隊と呼ばれた。その後、明治4年(1871)8月、当時の兵部省により陸軍と海軍の分割に伴い、薩摩藩楽隊は陸軍軍楽隊と海軍軍楽隊に二分された。(陸軍軍楽隊は「陸軍戸山学校軍楽隊」と呼ばれる時期があったが、ここでは統一して陸軍軍楽隊とする)

明治16年(1883)11月鹿鳴館の落成に伴い、陸、海軍軍楽隊の演奏は上流社会人に知らしめる場となり、高い評価を得ることとなった。さらに日清、日露戦争を経て充実を図り、軍楽隊は管楽器の演奏のみならず、管弦楽の演奏を試みた。弦楽器の導入は海軍軍楽隊が先に

明治41年(1908)に「弦楽器演奏研究」を目的に採用、陸軍軍楽隊は明治42年(1909)より管弦楽を編成した。しかし、陸軍軍楽隊は昭和6年(1931)国家非常体制に相応する軍楽隊ということで管弦楽演奏を断念している。

一方、一般市民が吹奏楽を聴くきっかけの一つになったのが、日比谷公園音楽堂の設立である。明治38年(1905)8月1日日比谷公園音楽堂において、市民に洋楽の趣味を持たせることを目的とした音楽会が開催されることになった。

明治末期から、楽器の国内生産が可能になったことや軍楽隊出身者が民間の吹奏楽団を指導する機会を得て、演奏団体が増加した。先駆けとして少年音楽隊の設立がそれである。

大正期に入り、学校や職場での吹奏楽団が数多く誕生した。その目的には、娯楽や情操教育という面もあったが、学校においては式典や行事のため、工場においては工員たちの慰問や生産効率向上のためでもあった。このような吹奏楽発展期にラジオ放送が開始された。

## 【ラジオ放送開始】

日本で初めてのラジオ放送は大正14年(1925)3月22日の東京放送局の仮放送から始まった。当初、同年3月1日を放送開始としていたが、当時の通信省の工事検査では不合格となり、やむを得ず試験放送ということで、芝浦高等工芸学校内の仮施設より放送が行われた。その際に陸海軍軍楽隊の演奏がそれぞれ放送されたが、試験放送の演奏曲目は以下の通りである。

<東京放送局試験放送(大正14年3月1日放送)>

9:30 海軍軍楽隊(管弦楽) 指揮:佐藤清吉

- 1.行進曲「後甲板にて」……………アルフォード
- 2.天使の夢……………ルビシュタイン
- 3.序楽「フェードル」……………マスネー

<東京放送局試験放送(大正14年3月5日放送)>

19:15 陸軍軍楽隊(吹奏楽) 指揮:春日嘉藤治

- 1.亜麻色の髪の乙女……………ドビュッシー
- 2.管楽七重奏……………ダンディ

(放送五十年史 資料編による)

その後、東京放送局は大正14年(1925)7月22日より本放送、大阪放送局は同年6月1日仮放送、翌年12月1日本放送、名古屋放送局は仮放送を行わず、同年7月15日に本放送をそれぞれ開始した。翌年、大正15年(1926)8月にラジオ放送を全国に広めることから東京、大阪、名古屋の3局が統一され「日本放送協会(現NHK)」が設立した。  
東京放送局の仮放送、本放送番組での吹奏楽演奏は次の通りである。

<東京放送局仮放送(大正14年3月22日放送)>

9:30 海軍軍楽隊演奏 指揮：佐藤隆一  
クラリネット独奏 幻想曲「マリタマ」…………… ラウンド  
ホルン独奏 歌劇「自由射手のカヴァティナ」…………… ウェバー  
弦楽四重奏 アンダンテ・カンタービレ…………… チャイコフスキー  
管弦楽 キスメット「東洋風」…………… マーケー  
歌劇「カルメン」抜萃曲…………… ビゼー

<東京放送局本放送(大正14年7月12日放送)>

10:00 陸軍軍楽隊演奏 指揮：平野主水  
吹奏楽 行進曲「ゼ・スナッパーズ」…………… ヘイワード  
カンタベリーの鐘…………… アンクリフ  
喜歌劇「マダム・ボンパドール」…………… レオ・パール  
ワルツ間奏曲「舞踏会の夢」…………… アーキバルト・ジョイス  
描写曲「僧院の庭にて」…………… ケテルベイ  
流行ワンステップ  
「アイウォントサムマネー」…………… シルバーマン  
「アイム・ゲッティング・ベター・エブリー・デイ」  
…………… ストロング  
(放送五十年史 資料編による)

また、大阪、名古屋放送局からの仮放送や本放送でも吹奏楽の演奏が流れた。

<大阪放送局仮放送(大正14年6月1日放送)>

12:00 大阪市音楽隊 歌劇「椿姫」抜萃曲 ほか

<名古屋放送局本放送(大正14年7月15日放送)>

9:30 名古屋音楽隊 曲目不明

(放送五十年史 資料編による)

### 【新聞紙上でのラジオ版掲載】

読売新聞は、放送開始から早い時期、大正14年(1925)11月15日に新聞紙上にラジオ版の掲載を始めた。ラジオ版では放送番組のほか、放送内容や曲目の解説、出演者の紹介や歌詞など事細かに掲載し、国民のラジオ放送に対する関心を高めた。また当時は時報も番組の一つであり、人々は放送時間に合わせて生活するようになった。

読売新聞は掲載前日には、下記のような記事が大きな見出しで掲載され、人目を引いた。

(大正14年11月14日発行 読売新聞社告を引用)

「お約束の明十五日、ラジオ版をいよいよ誕生 日刊新聞最初のくわだて」

## 【吹奏楽の放送回数】

ラジオ番組から「吹奏楽」をピックアップして放送回数を集計したものが《表1～3》である。ピックアップは、吹奏楽団、音楽隊、ブラスバンド、ラッパ鼓隊とした。当時、吹奏楽とブラスバンド(金管バンド)の形態を正確に分離させていなかったことと、ラッパ鼓隊(旋律喇叭鼓隊も含む)も吹奏楽の一部と考えられていたので同等と考えた。

集計は、読売新聞東京版の放送番組欄を主に「朝日新聞」「大阪朝日新聞」などを参考にまとめたものである。大阪放送局や名古屋放送局などの地方局での放送までは網羅していない。その理由は、限られた紙面においては地方局の放送番組が省略される場合が多く、把握することが困難であることと、東京放送局の番組は全国放送として多くの番組が中継されているので、ほぼ全国に放送されていると考えた。

また、レコード音楽として「吹奏楽」を放送することも多くみられたが、この場合は曲目だけでは演奏形態(吹奏楽または管弦楽、ハーモニカ合奏など)が判然としないのでやはり集計からは除外した。

地方局の番組、レコード番組や海外放送における吹奏楽については、別途述べることとする。集計した吹奏楽の放送番組を注目してみると、放送回数が増加傾向にあることが分かる。これは放送番組制作の方針ともとらえられるが、同時に吹奏楽発展との関連が多いことも注目すべき点である。

放送番組回数の変化が顕著にわかる年代を大きく3期に分けて、その変遷を探ってみる。

第1期 大正14年～昭和5年 軍楽隊中心の放送

第2期 昭和6年～昭和11年 民間吹奏楽団の放送

第3期 昭和12年～昭和20年 戦争前、戦争中の放送

さらに特徴的な吹奏楽の放送番組から、いくつかピックアップしてみたい。

## 【大正14年(1925)～昭和5年(1930)の放送番組】

《表1》 放送回数の内訳(大正14年～昭和5年)

	大正14 (1925)	大正15 (1926)	昭和2 (1927)	昭和3 (1928)	昭和4 (1930)	昭和5 (1931)	備 考
陸軍軍楽隊	18	9	13	12	12	16	
海軍軍楽隊	1	3	6	8	12	12	管弦楽除く
その他	3	5	4	6	3	8	
合 計	22	17	23	26	27	36	

この6年間の吹奏楽の放送番組回数は《表1》でも分かるように、散発的で昭和5年(1930)

まではほぼ月1～3回程度の放送であった。演奏楽団の主流は、やはり陸海軍の軍楽隊であるが、海軍軍楽隊が陸軍軍楽隊より少ないのは、海軍軍楽隊ではこの期間、管弦楽での放送が多かったためである。

以下は陸、海軍軍楽隊が管弦楽と吹奏楽を同時に放送する番組の例である。

(大正14年8月1日放送)

管弦楽 演奏：海軍軍楽隊 指揮：坂西久治

1. 行進曲「紐育ヒポドロム」…………… スーザ
2. 序楽「ルストスピール」…………… ケラベラ
3. 東洋風行進「キスメット」…………… マーキー
4. 「サリー・トロンボーン」…………… フィルモア
5. 軍艦マーチ…………… 瀬戸口藤吉

吹奏楽 演奏：陸軍軍楽隊 指揮：平野主水

1. 行進曲「我々の楽長さん」…………… ビシエロウ
2. ワンステップ「ホット・トロンボーン」…………… フィルモア
3. ソング・マーチ「アイ・ウオント・サム・マネー」  
…………… シルバーマン
4. ラグタイム「ラサス・トロンボーン」フィルモア
5. ソング「アイム・ゲッティング・ベター・エブリー・デイ」  
「ワンステップ・エブリーデー」…………… ストロング
6. ラグタイム「テデイ・トロンボーン」…………… フィルモア
7. 行進曲「カーチス飛行機四号」…………… ビジェロウ

その他の演奏団体では、大阪市音楽隊と職場吹奏楽団や少年音楽隊があった。それぞれの楽団の放送は以下の通りである。

#### <大阪市音楽隊(現大阪市音楽団)>

大正11年(1922)から12年かけて、軍備縮小から陸軍軍楽隊の3軍楽隊が廃止することになった。その背景には、第一次世界大戦収束に伴い軍事費縮小という名目で人員削減からのことである。そのため陸軍軍楽隊では、名古屋の第三師団軍楽隊と近衛軍楽隊それに大阪の第四師団軍楽隊が廃隊となった。とくに第四師団軍楽隊は大阪を中心として様々な音楽活動を行い、市民への音楽提供の中心となっていた。軍楽隊廃止を惜しむ声や廃隊による楽員の就職あっせんを考え、林亘(第四師団軍楽隊長)が市へ市立音楽隊創設の働きかけにより、同年7月18日に「大阪市音楽隊」が誕生した。常時の隊員は17名で陸海軍軍楽隊出身者であった。大阪市音楽隊はわが国最初の市立音楽団となった。《大阪放送》において、大正14年(1925)

頃は月平均1～2回の頻度で放送され、幅広いレパートリーを演奏した。《東京放送》では大阪からの中継により、大正14年(1925)12月21日の放送が最初とみられる。その後、昭和7～10年(1932～1935)までの間では月1回程度で放送された。

(大正14年12月21日放送)

《放送曲目》 大阪市音楽隊 指揮：林 亘

1. 混合序曲「米国軍歌」…………… ドバン
2. アイルランド兵の巡邏 …………… アマーツ
3. 歌劇「リゴレット」抜萃曲 …………… ヴェルディ

### ＜マツダ音楽団(東京電気株式会社)＞

職場の吹奏楽団の放送も注目される。職場の吹奏楽団の始まりは明治44年(1911)八幡製鉄職工養成所からとされ、大正期には工員たちの娯楽や慰問を兼ねて、様々な企業が吹奏楽団を設立してきた。それらの団体は軍楽隊と同様に放送されることになった。

マツダ音楽団は当初、合唱やマンドリンクラブなどの音楽活動を経て、関東大震災後に四千円を投じて、楽器や楽譜を購入し、近衛師団軍楽隊長 平野廣を招聘して大正13年(1924)9月に誕生した。団員数は27名であるが、当時としては、フレンチホルンやダブルバスを編成に加えるという斬新な編成であった。毎月1回、工場内で1500人の従業員のための演奏会を行っていた。(読売新聞記事より)

(大正15年8月12日放送)

《放送曲目》 指揮：平野 廣

1. 行進曲「親しき舊友」…………… タイケ
2. 序楽「あいさつ」…………… モール
3. 行進曲「パリとブラッセル」…………… チュリース
4. 邦楽「春雨」
5. 行進曲「第五十六旅団」…………… マーネー

### ＜豊島園少年音楽隊＞

少年音楽隊は東京三越(明治43年)、いとう呉服店少年音楽隊(明治44年)、出雲屋(大正12年)などが続けて設立され、初期の放送番組に登場した。とくに大阪放送局では、早い時期から放送されていた。

東京放送局では、昭和3年(1928)に少年音楽隊の一つである「豊島園少年音楽隊」の演奏が放送された。豊島園少年音楽隊は、三越少年音楽隊が解散した後の昭和2年(1927)に創設した音楽隊である。指導者は三越少年音楽隊の指揮者の久松鑛太郎である。久松鑛太郎

は、少年音楽隊の養成と指導の第一人者である。(読売新聞記事より)

(昭和3年12月28日放送)

〈放送曲目〉 指揮：久松鑛太郎

1. 冴え渡る月の夜 …………… アーバックル
2. お伽花籠 …………… 久松鑛太郎編曲
3. メリーウイドー …………… レハール
4. エレファンタンツ …………… レハール
5. 波浮の港 …………… 中山晋平

### <日比谷公園音楽堂>

日比谷公園音楽堂は、明治38年(1905)8月に完成、大音楽堂は大正12年(1923)7月に完成した。野外音楽堂では、陸海軍軍楽隊及び海外の軍楽隊が演奏し、市民の憩いの場として開かれていた。現在でも警視庁音楽隊(水曜コンサート)と消防庁音楽隊(金曜コンサート)が定期的に演奏会を開催している。当時の音楽堂での演奏会を中継で全国に放送された。一方、日比谷公園内にある日比谷公会堂は、昭和4年(1929)10月に完成、公会堂からも中継が行われた。

(昭和4年5月4日 日比谷公園音楽堂より中継放送)

日英親善交歓演奏会

第一部 吹奏楽

演奏：海軍軍楽隊 指揮：佐藤清吉

英国皇子歓迎前奏曲 …………… 山田耕筰

第二部 管弦楽

演奏：英国軍艦サフオーク号乗組軍楽隊 指揮：ビー・ハリソン

1. 行進曲「ワシントングレース」 …………… グラフーラ
2. 歌劇「レイモンド」序曲 …………… トーマ
3. 喜歌劇「学生王子」抜萃曲 …………… ロムバーク

### 【国産楽器の製造、楽譜や吹奏楽雑誌の普及】

明治中期の頃は、まだ管楽器は輸入に頼ることが多く、購入にも高額な資金と輸入までに時間が掛かることが問題であった。

大正期に入り楽器製造の国産化により楽器が入手しやすくなったことで、民間の吹奏楽団やスクールバンドが増える要因となった。大正7年に日本管楽器製造所(ニッカ)が設立され、楽器修理から徐々に楽器製造にも力を入れた。その後、楽譜や音楽雑誌などの出版事業も手

掛け、昭和8年には、吹奏楽専門雑誌「プラスバンド」(季刊)を発行することとなった。今後の吹奏楽促進に大いに貢献した。

### ＜海外吹奏楽団の放送＞

海外から来日した軍楽隊の演奏も開局当初より年1～2回程度放送された。海外の軍艦が日本に寄港する際に、同行している軍楽隊の演奏をラジオ放送で中継されることもあった。

(大正14年12月17日放送)

演奏：イタリア軍艦リビア号軍楽隊

指揮：アートロトウロット

1. イタリア海軍行進曲 …………… ビアーヴ
2. イタリア陸軍行進曲 …………… ビアーヴ
3. 円舞曲「愛の夢」 …………… ボーニ
4. ギターナ …………… バートルツキ
5. パセヂアッタ …………… バートルツキ
6. ポルカ「フリユフリユ」 …………… バートルツキ
7. ジョビネツツア …………… ブランク
8. 君が代
9. イタリア国歌

(大正15年4月26日放送)

演奏：フランス東洋艦隊旗艦ジュール・ミシエレー号乗組海軍軍楽隊

指揮：イー・マリウス

1. 「ファウストの却罪」より行進曲 …………… ベルリオーズ
2. 歌劇「ファウスト」抜萃曲 …………… グノー
3. 美しき舞台景 …………… マスネー  
① 舞踊の一節 ② 鐘の音
4. 円舞曲「エスパナ」 …………… ワルドトイフェル

### 【昭和6年(1931)～昭和11年(1936)の放送番組】

この6年間《表2》は吹奏楽の放送回数が以前より増えてきている。陸海軍軍楽隊と並び「大阪市音楽隊」が大阪放送局より中継でたびたび放送された。また、スクールバンドや職場吹奏楽団の活動が開始されたり、吹奏楽連盟の設立やコンクール開始など、演奏技術向上に努める楽団が増えてきたことで吹奏楽普及が加速していった。

《表2》 放送回数の内訳（昭和6年～昭和11年）

	昭和6 (1931)	昭和7 (1932)	昭和8 (1933)	昭和9 (1934)	昭和10 (1935)	昭和11 (1936)
陸軍軍楽隊	15	18	18	12	9	11
海軍軍楽隊	15	11	16	14	15	13
大阪市音楽隊	12	9	10	10	11	6
職場吹奏楽団	1	0	0	1	2	2
学校吹奏楽団	1	1	0	3	6	1
少年音楽隊	2	2	0	0	0	0
海外吹奏楽団	3	0	0	0	1	0
その他	2	6	3	2	8	11
合計	51	47	47	42	52	44

### ＜スクールバンド＞

学校における吹奏楽団の始まりは明治中期に遡るが、明治17年(1884)高知県の海南学校(現県立高知小津高等学校)で軍事教練のために結成された。その後、明治26年(1893)札幌農学校、さらに滋賀・七郷村立七郷尋常小学校など次々と設立した。

ラジオ放送において、大阪放送局では大正14年(1925)～15年(1926)に「京都南洋中学ブラスバンド」が放送された。東京放送局では、昭和6年(1931)～11年(1936)にかけて学校関係の吹奏楽団の放送が行われた。

(昭和6年1月3日放送)

演奏：東京府立第一商業スクーバンド 指揮：廣岡九一

1. 行進曲「双頭の鷺の旗の下に」…………… ワグナー
2. 愛情の天使 …………… ローレンドウ
3. 花束 …………… ローレンドウ
4. フランス風ポルカ …………… バーンハウス
5. 南米の思い出 …………… ユンテラー

### ＜吹奏楽連盟＞

アマチュアの吹奏楽団が次々に設立する中、全国に吹奏楽連盟が誕生する発端となった。設立については統一された理由ではなく、地域ごとその事情により様々である。その最初となったのが、昭和9年(1934)5月に愛知、静岡、三重、岐阜の4県下によって作られた東海連盟(現在の東海吹奏楽連盟)である。その後、全関西吹奏楽団連盟と次々に吹奏楽連盟が誕生、全国組織設立の機運が高まり、昭和14年(1939)に大日本吹奏楽連盟が結成された。

関東では昭和11年(1936)11月に全関東吹奏楽団連盟を設立した。コンクールは関東としては前年(昭和10年)に第1回を開催、第2回を昭和11年(1936)11月8日に行っている。その優秀団体の演奏がラジオ放送に流れた。昭和12年(1937)以降、コンクールでの優秀な団体が盛んに放送されることになった。

#### <第2回吹奏楽コンクール優勝団体(昭和11年12月6日放送)>

##### \*学校バンド

吹奏楽 演奏：東京府立第一商業スクールバンド 指揮：廣岡九一

1. 行進曲「武学生」…………… チュリース

2. 婚礼の歌…………… ゴールドマーク

喇叭鼓楽 演奏：専修商業学校喇叭鼓隊 指揮：山本袈裟吉

1. 行進曲「輝く御陵威」…………… 和田小太郎

2. 剛健…………… ガドォウス

##### \*工場バンド

吹奏楽 演奏：東京石川島造船所自彊吹奏楽団 指揮：野中経雄

1. 序曲「天色の恩恵」…………… ポンテ

2. 行進曲「石川島」…………… 石川島造船所自彊吹奏楽団

喇叭鼓楽 演奏：神戸喇叭修得団 指揮：齋藤二三男

1. 剛健…………… ガドォウス

2. 行進曲「美しき故郷」…………… 齋藤二三男編曲

#### <石川島造船所自彊吹奏楽団>

職場吹奏楽団での優秀団体の一つに「石川島造船所自彊吹奏楽団」がある。大正末期は労働運動が盛んになり、石川島造船所においても石川島自彊組合を組織して会社と対抗していた。吹奏楽団が設立されたのは昭和7年であり、設立にあたっては、ヨーロッパの職場バンドを実地に見た神野信一が主導したと云われているが、彼は設立前に亡くなっている。このバンドの指導、指揮は職員の野中経雄が行い、公開演奏やコンクールなどの実績を残し、知名度も高かった。(読売新聞記事より)

(昭和9年8月25日放送 学生青年団体の音楽)

吹奏楽 演奏：石川島造船所自彊吹奏楽団 指揮：野中経雄

斉唱 演奏：栗原紡織合名会社内 栗原勤愛女学校生徒 指揮：田口久仁

1. 斉唱 校歌ほか

2. 吹奏楽

① 行進曲「軍艦」…………… 瀬戸口藤吉

- ②序曲「印度の女王」…………… キング
- 3. 斉唱 工場歌「風もやはらぐ」ほか
- 4. 吹奏楽
  - ①学生行進曲…………… 海軍軍楽隊
  - ②日本労働者の歌…………… 本間雅晴作詞  
陸軍軍楽隊作曲
  - ③行進曲「大洋の誇りブリタニカ」…………… ビンディング

### 【昭和12年(1937)～昭和20年(1945)】

昭和12年(1937)日中事変を境に日本は戦争への道を進んだ。吹奏楽の放送回数《表3》に示す通り、今までに無く増加した。とくに太平洋戦争開戦を迎える昭和16年(1941)からはさらに倍の放送回数となり、連日吹奏楽の演奏を耳にすることとなった。演奏団体は軍楽隊の他、プロの楽団が大幅に出演するようになった。主なプロの楽団は、星櫻吹奏楽団、大阪市音楽隊、大阪音楽団、海洋吹奏楽団、警視庁音楽隊などである。職場の吹奏楽団は昭和16年(1941)をピークに、「音楽は軍需品なり」という言葉や職工たちを「産業戦士」と呼び、軍事色に拍車をかけた。同様に吹奏楽連盟の活動も活発になり、より吹奏楽の放送回数も多くなった。

しかし、演奏曲目も以前とは違い、序曲や円舞曲、描写曲の代わりに軍歌や行進曲が中心となり、国民の士気高揚、軍需産業の拡大を助長するような曲が並んだ。

《表3》 放送回数の内訳(昭和12年～昭和20年8月15日)

	昭12 (1937)	昭13 (1938)	昭14 (1939)	昭15 (1940)	昭16 (1941)	昭17 (1942)	昭18 (1943)	昭19 (1944)	昭20 (1945)
陸軍軍楽隊	12	5	13	13	23	22	21	15	13
海軍軍楽隊	17	14	18	19	33	26	26	24	13
放送吹奏楽団	0	0	0	0	7	42	35	25	8
プロ吹奏楽団	12	23	28	32	100	59	61	59	31
職場吹奏楽団	2	5	6	9	12	9	5	2	0
学校吹奏楽団	2	5	8	9	8	3	1	4	0
吹奏楽連盟関連	13	2	5	8	10	7	6	2	0
海外吹奏楽団	2	0	1	0	1	1	0	0	0
その他	10	4	2	8	11	11	11	9	11
合計	70	58	81	98	205	180	166	140	76

以下、特徴的な放送について列記しておく。

### <東京市高等小学校吹奏楽連盟初放送(昭和12年2月6日放送)>

さらに、小学校でも吹奏楽が盛んになり、新たに吹奏楽連盟が結成され、放送された。昭和11年(1936)6月に東京市内の愛宕、下谷、小石川、荒川第一、一ツ橋、京橋、牛込の8校の高等小学校の生徒で吹奏楽団を結成、初放送を行った。

《放送曲目》 指揮：小鷹直治

1. 君が代行進曲 …………… 吉本光藏
2. 我等の軍隊 …………… 和田小太郎
3. 建国行進曲 …………… 平野主水
4. うたのお国 …………… 東京市高等小学校吹奏楽連盟編曲
5. 軍艦行進曲 …………… 瀬戸口藤吉

### <旋律鼓笛喇叭鼓隊(昭和12年2月21日放送)>

「旋律鼓笛喇叭鼓隊」とは、元海軍軍楽隊隊長の瀬戸口藤吉により、吹奏楽の簡素化を目指して考案された。麻布旋律鼓笛喇叭隊の編成例は以下の通りである。

- |                   |                   |          |        |
|-------------------|-------------------|----------|--------|
| 第1ピッコロ笛 …………… 2名  | 第2ピッコロ笛 …………… 2名  |          |        |
| 第1ピストン喇叭 …………… 2名 | 第2ピストン喇叭 …………… 2名 |          |        |
| 第1バリトン喇叭 …………… 1名 | 第2バリトン喇叭 …………… 1名 |          |        |
| バス喇叭 ……1名         | 大太鼓とシンバル ……1名     | 小太鼓 ……2名 | 合計 14名 |

《放送曲目》 指揮：高橋辰寿

1. 行進曲「元寇の役」 …………… 永井建子作曲、瀬戸口藤吉編曲
2. 序曲「ゴールデンゲイト」 …………… 田邊勝久編曲
3. 行進曲「少年兵」 …………… 鈴木哲夫
4. 序曲「天国と地獄」 …………… オッフエンバッハ

### <星櫻吹奏楽団(昭和12年9月26日放送)>

昭和12年(1937)海軍軍楽隊出身者が組織した楽団で、指揮は元陸軍軍楽隊長・辻順治(当時：ビクター音楽部長)の吹奏楽団である。

《放送曲目》 指揮：辻 順治

#### 第一部 軍歌

1. 進軍譜
2. 天津の神兵
3. 航空二勇士

#### 第二部 吹奏楽

1. 行進曲「勝利の父」 …………… ガンヌ
2. 円舞曲「歌」 …………… 岡部伸平

### <警視庁音楽隊(昭和13年1月10日放送)>

現在の「警視庁音楽隊」は、昭和23年(1948)5月に発足し、隊長は旧陸軍軍楽隊長の山口常光が務めた。しかし、戦前にも警視庁音楽隊は編成されていた。昭和11年(1936)12月に石田総監時代に陸軍軍楽隊から上羽仙松を迎えた。しかしその後、戦争激化に伴い隊員の確保が困難となり、昭和16年(1941)7月に解散となった。この日、旧警視庁音楽隊の演奏が初めて放送された。

〈放送曲目〉 指揮：上羽仙松

1. 軍艦行進曲 …………… 瀬戸口藤吉
2. 序曲「嬉しき生涯」 …………… エンメル
3. 愛国行進曲 …………… 吉本光蔵
4. 帝都消防歌 …………… 山田耕筰
5. 警察歌

〈紀元二千六百年奉祝行事(昭和15年1月1日海外放送)〉

昭和15年(1940)は初代天皇の神武天皇即位から二千六百年にあたり、この年は奉祝行事として、大きなイベントが開催された。吹奏楽においては「紀元二千六百年記念吹奏楽行進曲」を懸賞募集し、3名の作品が入選作となり、この年に盛んに放送された。この他にも円舞曲「皇紀二千六百年」(海軍軍楽隊作曲)、紀元二千六百年頌歌(東京音楽学校作詞・作曲)など、記念曲が度々放送された。

演奏：陸軍軍楽隊・海軍軍楽隊 指揮：大沼哲・内藤清五

1. 紀元二千六百年記念懸賞募集吹奏楽行進曲 入選作三篇  
 深海善次作曲  
 水島数雄作曲  
 安倍 盛作曲
2. 序曲「新賀」 …………… 陸軍軍楽隊作曲
3. 行進曲「太平洋」 …………… 海軍軍楽隊作曲
4. 行進曲「紀元二千六百年」 …………… 海軍軍楽隊作曲

〈太平洋戦争開戦のラジオ放送(昭和16年12月8日放送)〉

6:20 ニュース

(臨時ニュースほか 中略)

7:50 仕事と共に(大阪放送) 吹奏楽

演奏：大阪放送吹奏楽団 指揮：福喜多鎮雄

1. 行進曲「皇軍の精華」 …………… 陸軍軍楽隊
2. 行進曲「空軍の威力」 …………… 海軍軍楽隊
3. 行進曲「大艦隊の行進」 …………… 江口夜詩

- 4.行進曲「暁の進軍」……………江口夜詩  
 (臨時ニュースほか 中略)
- 10:40 レコード(吹奏楽)  
 軍隊行進曲集(20分間)
- 12:00 時報  
 君が代、詔書奉読、大詔を拝し奉りて  
 愛国行進曲
- 12:16 大本営陸海軍部発表
- 12:17 吹奏楽 演奏：東京交響吹奏楽団 指揮：服部逸郎  
 1.行進曲「皇軍の意気」……………服部逸郎  
 2.大行進曲「アジヤの力」……………大政翼賛会・日本放送協会選定  
 服部逸郎編曲  
 3.愛国行進曲……………瀬戸口藤吉  
 (臨時ニュースほか 中略)
- 18:30 合唱と管弦楽  
 演奏：東京放送管弦楽団・日本放送合唱団 指揮：片山颯太郎  
 軍艦行進曲、海ゆかば ほか
- 19:00 君が代、詔書奉読ほか(中略)
- 20:15 吹奏楽 演奏：海軍軍楽隊 指揮：内藤清吾  
 1.行進曲「連合艦隊」(斉唱付)……………山田耕作  
 2.行進曲「軍艦」……………瀬戸口藤吉
- 20:24 ニュース、宣戦布告、全国民に告ぐ  
 伴奏：東京放送管弦楽団 指揮：古関裕而
- 20:40 吹奏楽 演奏：海軍軍楽隊 指揮：内藤清吾  
 海ゆかば ほか
- 21:00 ニュース・音楽  
 吹奏楽(演奏者等不詳)  
 1.軍歌「世紀の進軍」……………海軍軍楽隊  
 2.軍歌「海洋航空の歌」……………海軍軍楽隊  
 3.行進曲「海の進軍」……………海軍軍楽隊  
 4.行進曲「護れ海原」……………海軍軍楽隊  
 合唱(演奏者等不詳)  
 太平洋行進曲・愛国行進曲
- 22:00 時報  
 今日の戦況とニュース

### 【太平洋戦争開戦当時の番組編成】

太平洋戦争開戦当時は、従来の6:20～22:00の放送時間を拡大し、6:00～23:30となり、聴取者に対し、1日中スイッチを切らないように要望した。この間にニュースが頻繁に放送され、毎時の始めにはニュースを放送し、ニュースを聞く習慣を聴取者にうえつけることとした。戦果を知らせるニュースには、国民の士気を高めるために、それが陸軍の場合は「分列行進曲」(ルルー作曲)、海軍の場合は「軍艦行進曲」(瀬戸口藤吉作曲)が流れ、陸海合同の場合は「敵は幾萬」(山田美妙作詞・小山作之助作曲)が流れた。

また、放送番組についてもいろいろ制約が強くなり、国民にとっては生活が不便になるばかりか、日本全体軍事色に染まってきた。気象通報や天気予報は軍事機密上から放送が中止となり、各局の第2放送(都市放送)も放送中止、臨時ニュースでは海外における戦況報告が常時放送されることとなった。

音楽面では太平洋戦争の勃発直後、当時の情報局と内務省では米英音楽の追放を唱えた。とくに米国のジャズを始め軽音楽と呼ばれる音楽は放送から消えた。

### <軍歌と吹奏楽>

戦いが起こると、それに伴い軍歌が生まれる。軍歌の定義は難しいが、戦いに臨む兵士に向け、あるいはそれを支える国民に士気を鼓舞するための歌でもあった。時には、戦いの状況、勇将たちや部隊を称えた歌詞など様々である。

明治18年に「抜刀隊」を軍歌と名付けたと云われている。その後、軍歌は兵士のみならず、国民の間にも浸透していったが、日露戦争後、一時下火となった。昭和になり満洲事変頃より、また盛んになり多くの軍歌が生まれ、ラジオ放送に登場した。やがて、軍歌は吹奏楽の放送では、必ず演奏された。

「軍歌と吹奏楽」または「吹奏楽と軍歌」とした番組は、昭和16年12月の太平洋戦争開戦を皮切りに一気に増え、吹奏楽の放送では「行進曲と軍歌」がセットとなって放送された。また、軍歌は歌謡曲とも唱歌とも繋がりを持ち、日々生活の一部であった。

### <軍歌と吹奏楽 (昭和17年1月2日放送)>

演奏：陸軍軍楽隊

指揮：大沼 哲

1. 観兵式分列行進曲 …………… ルルー

2. 軍歌集

① 進軍の曲 ② 進軍の歌 ③ 愛国機 ④ 露営の歌

⑤愛国行進曲 ⑥皇軍大捷の歌

3.行進曲「進め一億目玉だ」……………長妻完至

4.行進曲「大建設」……………大沼 哲

**【終戦】**

昭和20年(1945)8月15日正午の「玉音放送」をもって国民に戦争終結が知らされた。「玉音放送」時に流れた音楽はなく、放送五十年史にもその記録がない。この日をもって、陸軍軍楽隊、海軍軍楽隊は解体となり、明治から支えてきた「吹奏楽」の任を解かれた。この日を境にラジオ放送はGHQの統制の下となり、ニュースが中心となった。新聞記事のラジオ欄も縮小になり詳細を知ることができなかった。しかし、9月初め僅かなラジオ番組欄のスペースに「吹奏楽」が掲載された。

12:05 吹奏楽(9月1日放送)

演奏：海洋吹奏楽団 指揮：宮下豊次

行進曲「大日本」ほか

戦後、ラジオ番組での「吹奏楽」復活の証である。

**【海外放送】**

昭和2年(1927)8月のジュネーブ国際連盟対外世界放送の受信試験以来、国際交換放送の試みは不定期ではあったが行われてきた。昭和9年(1934)6月に国内番組を台湾、朝鮮、満洲向け短波放送の成功を契機に、海外放送に対する在外邦人の要望が高まった。

このような状況を背景に日本放送協会は、放送開始10周年を記念して、昭和10年(1935)6月1日海外放送を開始した。

海外放送開始日の番組では、午前11時より陸軍戸山学校軍楽隊、指揮は岡田国一が行った。曲目は以下の通りである。

(昭和10年6月1日放送 海外放送開始)

演奏：陸軍軍楽隊 指揮：岡田国一

- 1.観兵式分列行進曲……………陸軍省制定
- 2.長唄「越後獅子」……………陸軍戸山学校軍楽隊編曲
- 3.接続曲「日本民謡」……………陸軍戸山学校軍楽隊編曲

その後、第二次世界大戦において、アジア各地の戦地に配信された。しかし残念ながら海外放送に関しての資料が少なく、全体を把握することが難しい。唯一、吹奏楽年鑑(昭和17年発行)には、昭和16年度(1941)の年間海外放送の記録が残っている。地域としては、支那やパラオなど占領地向けが多かった。年間放送回数は54回、演奏団体は陸軍軍楽隊、海軍

軍楽隊、星櫻吹奏楽団、東京交響吹奏楽団などであった。

### 【地方局における吹奏楽番組】

大正14年(1925)、東京、大阪、名古屋放送局が開局後、昭和3年(1928)には広島、熊本、仙台、札幌、金沢、京都、福岡で有線の中継放送網が完成し、全国中継放送が開始した。その後、各地に放送局が開局し、終戦までには約50放送局となった。各地方局は全国放送のほか、ローカルな番組を編成し各地の学校や職場の吹奏楽団の演奏を放送した。

(昭和8年4月13日 京都放送)

演奏：平安中学校プラスバンド

京都女子高等専門学校聖歌合唱団

曲目：掲載なし

(昭和8年5月29日 大阪放送)

演奏：天王寺商業プラスバンド

指揮：高丘黒光

1. 描写曲「狩の光景」…………… ブカロッシー

2. 組曲「アルルの女」より…………… ビゼー

①インテルメッツォ ②ファランドール

### 【レコード放送】

ラジオ放送ではしばしばレコードを流すことが多かった。レコードは昭和2年から3年にかけて日本でもポリドール、コロムビア、ビクターなどの海外洋楽レーベルが国内でプレスされるようになり、ラジオ放送でも盛んに流れた。レコード放送がいつから開始したかは定かではないが、番組として組まれた場合もあるが、時には次の番組の間(ま)を繋ぐときにも流れた。昭和6年(1931)に開始した第2放送(昭和14年からは都市放送に改称)では、レコード番組が多く組み込まれた。レコード放送の場合、番組欄には「レコード音楽」としか掲載されず、逆に曲目が掲載されていても演奏形態が吹奏楽または管弦楽か、演奏団体が不明な場合も多い。

当時のレコードはSP盤であり一面が4分程度あったので、行進曲などにはちょうど良いが、交響曲や序曲など4分を超える演奏の場合、手作業でのレコードチェンジは大変苦勞であったが、その後オートチェンジャーが発明され円滑に放送された。

第2放送での放送時間帯は、12:05から15分～20分程度放送されることが多く、海外の軍楽隊のマーチなどが放送されたが、フランスのギャルドレピュブリケース吹奏楽団の演奏もあった。昭和8年の番組の一部は以下の通りである。

(昭和8年2月28日放送)

演奏：フランス近衛軍楽隊

1. 行進曲「サンプル・エ・ミュージ」 …………… ブランケット
2. 行進曲「勝利の父」 …………… ガンヌ

(昭和8年3月2日放送)

演奏：スーザ吹奏楽団

1. 行進曲「剣と拍車」 …………… スーザ
2. 行進曲「勇者は前線へ」 …………… スーザ

演奏：プレイヤー吹奏楽団

3. 愉快な鍛冶屋 …………… ペーテルス
4. 円舞曲「機嫌を直して」 …………… ツェラー

(昭和8年7月7日放送)

演奏：ロンドン吹奏楽団

1. 行進曲「大草原の花」 …………… ヒューム
2. 行進曲「リンウッド」 …………… ヒューム

## 【おわりに】

今回の研究は、社会、メディア、吹奏楽の3点を結んだものである。ラジオ放送開局以来、「吹奏楽」が放送番組に組み込まれ、全国あるいは地方局から流れ、多くの国民は「吹奏楽」を意識して聴いたのではなく、生活の一部として聴いてきたものと思われる。

大正14年(1925)開局から昭和20年(1945)までの約20年間のラジオ番組の中から「吹奏楽」のみをピックアップする作業は容易ではなく、地道な作業であり絞り込むのに苦労したがそれぞれに特色ある番組であった。

第二次世界大戦の終戦で区切った理由としては、終戦を迎えたことにより日本国が大きく歴史が様変わりしたこと、明治2年に編成された吹奏楽の原点とも云うべき陸海軍軍楽隊が解体となったことが、大きな区切りと考えた。

最終的に実際の放送番組を確認するために「放送番組確定表」を閲覧すべくNHK放送博物館に問合せたが、コロナ感染防止対策のため閉鎖されており、残念ながら今回は止む無く断念することとなった。

しかし、今回の研究ではラジオ番組に取り上げられた演奏団体や演奏曲目が吹奏楽の変遷という観点からはかなりの資料が収集できた。また、放送番組の中で陸海軍軍楽隊及び大阪市音楽隊、星櫻吹奏楽団、海洋吹奏楽団などのプロの吹奏楽団のほか、各種工場の職場吹奏楽団、商業関連の少年音楽隊、学校関連の吹奏楽団、その他の地域などのアマチュア吹

奏楽団やブラスバンド、喇叭鼓隊など、様々な団体に巡り合えた。さらに時代の流れに伴って演奏される様々な曲目にも注目し、社会情勢も鑑みることもでき、今後さらにこの研究を継続することが必要であると筆者は考える。

戦後、メディアはさらに発展し、テレビ放送、FMステレオ放送の発達、レコードに代わりCDなど様々な音楽媒体の発達により、さらに吹奏楽がより身近な演奏となってきた。近年、YouTubeなど「いつでも・どこでも・誰でも」吹奏楽の演奏を配信、鑑賞出来る便利なツールもある。これからの吹奏楽発展が楽しみであり、さらに独自の進化を遂げるだろうと考える。そのメディアのルーツとして「ラジオ放送」があったことは事実である。

最後に、この研究紀要題材のきっかけを頂き、またアドバイス頂きました、谷村政次郎先生（元海上自衛隊東京音楽隊長）に感謝申し上げます。

（本学講師＝付属高等学校）

社会・放送・吹奏楽に関する主な出来事

西暦	和暦	主な社会の出来事	放送関係	主な吹奏楽の出来事
1925	大正14年		3/22 東京放送局仮放送 7/12 東京放送局本放送開始 7/15 名古屋放送局本放送 11/15 読売新聞ラヂオ版創設	* 東京三越少年音楽隊解散 (明治42年設立)
1926	大正15年 昭和元年	12/25 大正天皇崩御	8/20 東京・大阪・名古屋三局合同 (社)日本放送協会発足 12/1 大阪中央放送局本放送 12/25 大正天皇崩御速報	* 大阪三越少年音楽隊解散 (大正元年設立) * 出雲屋少年音楽隊解散 (大正12年設立) * 東京電気吹奏楽団設立
1927	昭和2年		9/ テレビ実験放送	* 豊島園少年音楽隊設立
1928	昭和3年	6/4 張作霖爆殺事件	札幌・熊本・仙台・広島局放送開始	* 日本フェルト吹奏楽団設立
1929	昭和4年			* 旭川吹奏楽連盟結成
1930	昭和5年			
1931	昭和6年	9/18 満州事変勃発	4/6 東京放送局第2放送開始	
1932	昭和7年	3/1 「満州国」建国 5/15 五・一五事件	4/7 (社)朝鮮放送協会設立 6/21 短波による満州から定期放送開始	* 石川島造船所自彊吹奏楽団設立 * 神戸市鼓隊連盟 (喇叭鼓隊の連盟) 結成
1933	昭和8年	3/27 国際連盟脱退	6/26 大阪・名古屋第2放送開始	* 吹奏楽専門雑誌季刊「ブラスバンド」発刊 * 大阪市音楽隊発足
1934	昭和9年		6/1 台湾・満州向け短波放送開始	* アマチュアバンド東海連盟発足
1935	昭和10年		4/15 学校放送全国向けの放送開始	* 第1回吹奏楽コンクール開催 * 「ブラスバンド・喇叭鼓隊ニュース」発刊
1936	昭和11年	2/26 二・二六事件	2/29 「兵士に告ぐ」を戒厳司令部から放送	* 警視庁音楽隊設立 * 吹奏楽専門雑誌「バンドの友」発刊
1937	昭和12年	7/7 蘆溝橋事件 8/13 日中全面戦争	7/14 報道番組強化 11/ 東京放送管弦楽団発足	* アマチュアバンド東海連盟より全東海吹奏 楽団連盟に改称
1938	昭和13年	7/11 張鼓峰事件 (日ソ)	5/19 前線放送開始	* 第1回吹奏楽器個人コンクール開催

1939	昭和14年	5/14	ノモハン事件 (日蒙)	5/13	テレビ電波発射	5/13	テレビ電波発射	*大日本吹奏楽連盟設立
1940	昭和15年	9/23 9/27	北部仏印進駐 日独伊三国同盟	1/27	日本放送合唱団発足	1/27	日本放送合唱団発足	*紀元二千六百年奉祝行事 *第1回全日本吹奏楽コンクール開催
1941	昭和16年	4/13 12/1 12/8	日ソ中立条約 対米英蘭開戦決定 太平洋戦争開戦	4/1 12/8 12/9	学校放送を国民学校放送に改称 太平洋戦争開戦臨時ニュース 都市放送(第2放送)・気象通報中止 全国同一周波数放送となる。	4/1 12/8 12/9	学校放送を国民学校放送に改称 太平洋戦争開戦臨時ニュース 都市放送(第2放送)・気象通報中止 全国同一周波数放送となる。	*音楽研究会編「吹奏楽年鑑」発行 *「吹奏楽団の指導と経営」廣岡九一著発行 *陸海軍軍楽隊出身者により「星櫻吹奏楽団」 「海洋吹奏楽団」を設立
1942	昭和17年	4/18 6/5 10/26	日本本土初空襲 ミッドウェイ海戦 南太平洋海戦	1/13 4/18 4/29	マニラ放送局開局(占領地初) 東京初空襲に警報を放送 (財)日本交響楽団発足	1/13 4/18 4/29	マニラ放送局開局(占領地初) 東京初空襲に警報を放送 (財)日本交響楽団発足	*音楽研究会編「吹奏楽年鑑」発行 *「吹奏楽指導の方法」廣岡九一著発行
1943	昭和18年	9/30 5/12 10/21	絶対国防圏策定 米軍アッツ島上陸 学徒出陣壮行会	1/7 10/21	「前線へ送る夕」放送開始 出陣学徒壮行会実況(神宮外苑)	1/7 10/21	「前線へ送る夕」放送開始 出陣学徒壮行会実況(神宮外苑)	*戦争のため全日本吹奏楽コンクール中止
1944	昭和19年	8/4 8/11 10/10 10/25 10/24	学童疎開始まる グアム島玉砕 米機動部隊、沖縄を空襲 海軍神風特別攻撃隊初出陣 東京初空襲	5/1 10/28	演芸・音楽番組の強化 神風特攻隊に関する全軍布告を放送	5/1 10/28	演芸・音楽番組の強化 神風特攻隊に関する全軍布告を放送	
1945	昭和20年	3/10 3/17 4/1 6/8 7/26 8/6 8/8 8/9 8/15 9/2	東京大空襲 硫黄島玉砕 米軍、沖縄上陸 御前会議 本土決戦の方針を確認 米英中、ポツダム宣言発表 広島原爆投下 ソ連宣戦布告、満州に侵攻 長崎原爆投下 日本軍無条件降伏 米戦艦「ミズリー号」船上、 降伏文書調印式	3/23 4/1 5/14 8/6 8/9 8/10 8/15 8/22 9/1 9/10	沖縄放送局米軍により破壊 放送時間を縮小、学校放送休止 名古屋放送局戦災により焼失 広島放送局原爆により焼失 長崎放送局原爆により焼失 ポツダム宣言受諾を放送 終戦勅書を放送 天気予報放送復活 各局概ね復帰 GHQより放送番組の編成基準を指令 される	3/23 4/1 5/14 8/6 8/9 8/10 8/15 8/22 9/1 9/10	沖縄放送局米軍により破壊 放送時間を縮小、学校放送休止 名古屋放送局戦災により焼失 広島放送局原爆により焼失 長崎放送局原爆により焼失 ポツダム宣言受諾を放送 終戦勅書を放送 天気予報放送復活 各局概ね復帰 GHQより放送番組の編成基準を指令 される	*陸海軍軍楽隊解散

## 【参考文献】

- 読売新聞ラジオ欄（大正14年～昭和20年）  
朝日新聞ラジオ欄・大阪朝日新聞ラジオ欄（同上）  
放送の五十年「昭和とともに」……………日本放送協会編（日本放送協会出版協会）  
放送五十年史……………日本放送協会編  
放送五十年史（資料編）……………日本放送協会編  
20世紀放送史年表……………NHK放送文化研究所  
音楽五十年史（上・下）……………堀内敬三著（講談社学術文庫）  
私の日本音楽史……………團伊玖磨著（NHKライブラリー）  
日本の洋楽……………大森盛太郎著（新出出版社）  
日本の吹奏楽史……………戸ノ下達也編著（青弓社）  
吹奏楽の歴史……………秋山紀夫著（ミュージックエイト社）  
陸軍軍楽隊史「吹奏楽物語り」……………山口常光著（三青社）  
海軍軍楽隊……………楽水会編  
海軍軍楽隊「花も嵐も」……………針尾玄三著（近代消防社）  
吹奏楽年鑑（昭和16年版）……………管楽研究会  
ブラスバンドの社会史「軍楽隊から歌伴へ」……………阿部勘一ほか（青弓社）  
全日本吹奏楽連盟50周年史……………（社）全日本吹奏楽連盟  
全日本吹奏楽連盟80周年史……………（社）全日本吹奏楽連盟  
関東吹連60年の歩み……………関東吹奏楽連盟  
証言—日本洋楽レコード史（戦前編）……………歌崎和彦著（音楽之友社）  
演歌からジャズへの日本史……………園部三郎著（和光社）  
最新「吹奏楽講座」7. 吹奏楽の編成と歴史……………音楽之友社  
日本の軍歌「戦争の時代と音楽」……………小村公次著（学習の友社）  
日比谷公園音楽堂のプログラム……………谷村政次郎著（つくばね社）  
決定版「軍歌・校歌集」……………メトロポリタンプレス  
近代日本の音楽百年第1巻洋楽の衝撃……………細川周平著（岩波書店）  
「陸軍分列行進曲」とふたつの「君が代」……………大山真人著（平凡社新書）  
日本の軍歌「國民的音楽の歴史」……………辻田真佐憲著（幻冬社新書）  
はじめて学ぶ「日本近代史」……………大日方純夫著（大月書店）  
昭和史（新版）……………遠山茂樹ほか（岩波新書）